

	従来技術（巡視員による目視点検）	新技術（GLOCAL-EYEZ）	評価
経済性	—	【参考】372万円／年 ・アカウント使用料：360万円/年（AI解析+データ保存料） ・スマートフォン※貸与料：12万円/年（機材費+通信費） ※本技術が対応するスマートフォンは、iPhone8以降のシリーズ（iPhoneSEは第2世代のみ）である。	道路巡視自体は路面状況の把握以外にも多数の点検項目があり、今回のニーズに対してはシーズ技術により道路パトロール自体を省略できるものではないため、経済性は評価対象外とし、新技術導入費用を参考値として記載する
工程	・道路パトロール中において巡視員の目視により発見した路面変状は即時に確認し対応する。	・路面変状を検知し巡視員が確認できるまでの時間は約15分。 ・今回の現場試行調査では、即時ではないものの、道路パトロール時間内で路面変状を検知し巡視員が確認することができた。	B 〔従来技術より優れる〕 今回の現場試行調査時では、即時ではないものの、道路パトロール中に路面変状を検知し巡視員が確認することが可能であり、工程に優れる。
品質・出来形	・道路パトロール中に巡視員の目視により路面変状を確認しているため、見落としや車両の割り込み等により路面を全て確認できない場合がある。 ・目視による判断となるため、判断にムラが生じる。	・パトロール中に巡視員が確認した路面変状箇所は全て検知することができた。また、通常は巡視員が確認しない軽度の損傷（ポットホール）も6箇所検知できたことから、検知精度は巡視員の目視と同等以上である。 ・マップビューを用いて段差やポットホールの位置、変状の程度を色分け表示できるため、路面変状の状況確認は容易であった。 ・10m毎に画像を切り取るため、スマホ上で現地画像を確認するときに変状が確認しにくい場合があった。	A 〔従来技術より極めて優れる〕 巡視員の目視による路面変状確認と同等以上の精度で検知し、自動的に変状程度を色分けしマップ上に表示できるため、品質・出来形に極めて優れる。
施工性	・道路パトロール中の巡視員による目視点検のため特になし。	・パトロール車への設置、撤去が容易である。（約10分） ・通常のパトロール車の走行速度で計測が可能 ・機器操作は、録画の開始終了時の選択と画角調整のみのため巡視員でも容易に操作することができる。	A 〔従来技術より極めて優れる〕 初めて機器を操作する巡視員でも、事前の簡単な説明で操作でき、特別な知識、資格等は不要であり、さらに通常パトロール車の走行速度で計測できるため、施工性は極めて優れる。
合計			B：従来技術より優れる

技術の成立性	・本技術は実用段階で、測定精度は比較的良好であり従来の巡視員の目視による路面点検を補完し、損傷箇所把握の精度向上を図ることができる。
実用化	・今後の解析時間短縮化（リアルタイム化）や路面変状を判定するための閾値を管理区分に合わせて任意設定できる等の機能改善が必要である。
活用効果	・測定精度は比較的良好であり、任意で閾値の設定等ができれば様々な観点で道路パトロールに活用できるため、品質・出来形の向上が期待できる。
将来性	・今後の解析時間短縮化（リアルタイム化）や路面変状を判定する閾値設定機能の追加・改善することで、日常の道路パトロールや、長期間にわたるパトロールの測定データを蓄積することで、変状が発生しやすい箇所の抽出、予測等、抜本的な道路舗装の補修計画検討にも活用できる。
生産性	・本技術を活用することにより、日常の道路パトロールによる路面点検の効率化と巡視員の負担軽減を図ることができる。

評 価

- ・自動で路面変状箇所、損傷の規模を検知できるため、従来の目視点検による見落としが減少し、道路の日常点検の品質向上、効率化が図られる。
- ・機器の設置、操作が容易であるため施工性は極めて優れる。

品質・出来形

— 従来技術（従来工法）

— 新技術